

地域で頑張る皆さん



あんざい てつ お
安齋 哲男 さん
81歳（常磐 浅貝・八仙地区）
・浅貝悠々くらぶ会長

浅貝・八仙地区に助け合って楽しむ「浅貝悠々くらぶ」として発足11年になりました。会員は60名それぞれ年齢を意識することなく活動に参加しています。毎月1回健康体操や栄養士によるお料理勉強会、映画鑑賞やハイキング、忘年会

餅つき会、手打ちそば食事会、おしゃべりお食事会など様々な企画を通じ、会員同士の親睦、健康増進の他、レクリエーション、地域社会との交流を深め活動することを目指しています。お互いに助け合い明るい地域をつくっています。



常磐：手打ちそば食事会



おおつ ゆう か
大津 優香 さん
25歳（小名浜在住）
・スーパー店員

特別支援学校を卒業し、スーパーで働き始めて7年になります。産休や育休も経て、今はお子さんを保育園へ送り迎えしながら働いています。これまで大変なこともあり

ましたが、姉の励ましや相談支援員の応援を受け乗り越えてきました。ヘルパーの援助がなくても家事ができるようになり、「家事が大変と思ったことはないです。子供ができたからには、仕事は続けていかないと。子供のためにも、自分のためにも、めげずに頑張りたいです。」と話す優香さん。子供思いの優しく、がんばりやのお母さんです。



職場で品出し中

小名浜地域包括支援センター（泉サブセンター）

泉・渡辺地区の高齢者などの人口増加に伴い、平成30年8月にJR泉駅から歩いて5分の場所に泉サブセンターが開設されました。

泉・渡辺地区は、住民が中心となって子どもから高齢者まで様々な地域活動が盛んに行われています。当センターが開所されたことで、地区内の高齢者、障がい者の方々、その家族、近隣に暮らす人々の健康・介護・医療・生活に関する幅広い相談に専門職が対応します。

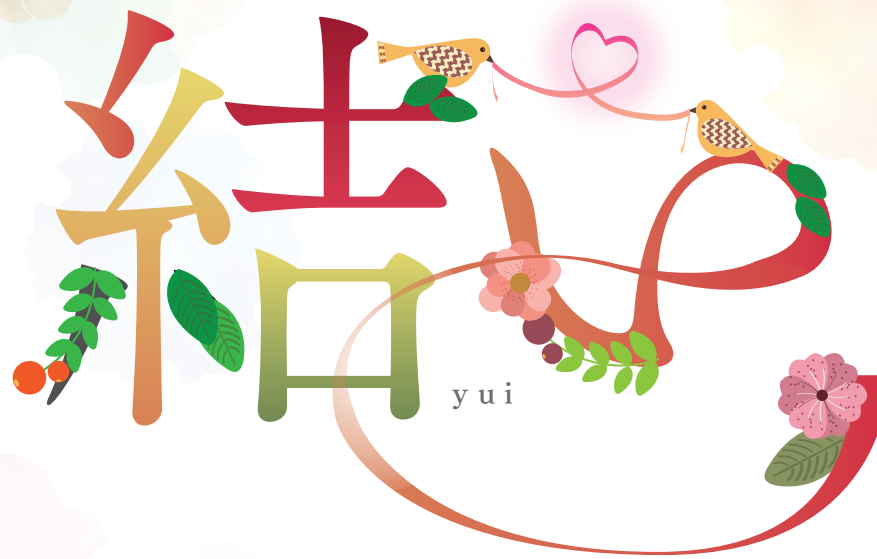
地域の皆様にとって、今まで以上に身近な相談窓口となることを目指し、優しい笑顔のスタッフがお待ちしております。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

連絡先 いわき市泉町一丁目8-9 ☎84-9460



泉サブセンター

NPO 法人地域福祉ネットワークいわき



2019
第20号
[yui]

あなたを包む
優しい光になりたい…

「NPO法人地域福祉ネットワークいわき」は、高齢者や障がい者をはじめとした誰もが自らの意志により、どこでどのように暮らすか（暮らしたいか）を決め、実践することのできる地域社会の実現を目指していきます。私たちの組織は平成19年よりいわき市地域包括支援センター業務を、また平成29年よりいわき基幹相談支援センター及び障がい者相談支援センター業務を運営しております。

発行：NPO法人 地域福祉ネットワークいわき
編集：NPO法人 地域福祉ネットワークいわき広報委員会

〒970-8026 福島県いわき市平字菱川町1番地の3
（いわき市社会福祉センター3階）

TEL.0246-68-7612 FAX.0246-21-7618

✉ yui@npo-fukushinetiwaki.com

🌐 http://npo-fukushinetiwaki.com/

ご感想は
こちらまで

HP
QRコード



Face
book
QRコード



ご挨拶

特定非営利活動法人 地域福祉ネットワークいわき

理事長 鎌田 真理子

「お一人様でも 安心して老いるための
地域福祉を進めています」

平成31年の新しい年を迎え、「特定非営利活動法人 地域福祉ネットワークいわき」を代表し、ご挨拶を申し上げます。当法人はいわき市のご高齢者や障がいをお持ちのみなさまに福祉のあらゆるご相談やご支援を行う中立的組織として、いわき市役所および支所に約100名の専門職者が勤務する県内最大規模の公益事業を担うNPO法人です。昨年度は市内のJR泉駅近くに高齢者と障がい者が利用できる共生型デイサービスセンター「つながる」を開所し、いわき市の高齢および障がい者の健康度を改善する事業をスタートさせました。

今年度には身元保証(身元引受)制度がスタートします。お一人暮らしでは、アパート入居や福祉施設入所時の保証人の問題、終活、孤立死などの不安もありませんかと思いますが、このような課題に総合的な取り組みの準備を進めております。

当法人は社会や地域の変化と共に生ずる福祉課題を発見し、その改善・解決に向けた活動を実践する専門機関であり専門職者組織です。今後も市民の皆様の地域福祉を進め、お一人おひとりが健やかな毎日をお過ごしいただけますよう誠実に事業を進めてまいります。

お問合先

○地域包括支援センター

平地域包括支援センター

中央台サブセンター

小名浜地域包括支援センター

泉サブセンター

勿来・田人地域包括支援センター

常磐・遠野地域包括支援センター

内郷・好間・三和地域包括支援センター

四倉・久之浜大久地域包括支援センター

小川・川前地域包括支援センター

○いわき基幹相談支援センター

○いわき障がい者相談支援センター

北部地域

☎22-1132

小名浜地域

☎92-0415

勿来・田人地域

☎63-2111（内線5389）

常磐・遠野地域

☎43-2111（内線5586）

内郷・好間・三和地域

☎27-8660

☎22-1174

☎38-5831

☎53-4760

☎84-9460

☎63-2140

☎43-2151

☎27-8660

☎32-2115

☎83-1411

☎22-1130

事務局 長コラム

会員の蛭田 実さんが亡くなりました。68歳。「障がい者である自分自身が大好き」というあなたのことが私は大好きでした。まだまだ、いろいろなことを話したかったのに、残念。いつでも笑顔でみんなを和ませてくれましたね。天国でも、楽しいDJチャレ連発してください。合掌。

（園部）



一緒に暮らしやすい地域をつくりましょう

地域福祉ネットワークいわきでは、高齢となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供され地域ぐるみで支えていく「地域包括ケアシステム」の構築、さらに高齢者のみならず障がい者・子供など全ての人々が共に支え合い生きがいを持って生活できる「地域共生社会」の実現に向け、各地域で様々な事業に取り組んでいます。

介護・リハビリテーション

【認知症予防について】

認知症を題材としたテレビドラマが放送されるなど、社会の関心は高まっています。認知症がもっと身近に感じてもらえるよう、小学生を対象に認知症サポーター養成講座を開催しました。教本や紙芝居を用いて認知症を学び、自分に置き換えて認知症になった気持ちを個々で考え、それを児童らで共有する流れで進めました。伝える難しさを感じつつも児童の笑顔に励まされ、今後も広く認知症への理解を進めて行こうと思いを新たにしました。



好間二小認知症教室の様子(1)



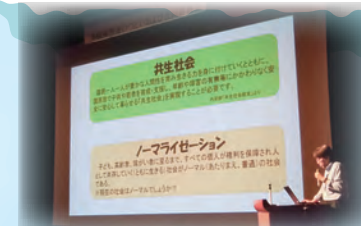
好間二小認知症教室の様子(2)

医療・看護

【医療と介護の連携のつどい】について

南部地区在宅医療・介護多職種連携のつどいを開催しました。呉羽総合病院 緑川先生から「生活習慣病」について、いわき障がい者相談センター 白土氏から「障がい者相談支援体制」について、講演をいただきました。また、理学療法士、ケアマネジャー、訪問看護師それぞれからは「連携がうまくいった症例報告」をしました。日頃からの顔の見える関係づくりがとても大切で、健康や地域とつながって暮らしていくことの意味を改めて考える機会になりました。

一人ひとりが住みなれた地域で暮らしていけるように、地域包括ケアシステムの構築に向けて関係機関との情報共有、連携を図りながら今後も取り組んでいきます。



講演の様子



参加者集合写真

介護予防・生活支援

【つどいの場】

いわき市各地で開催されている「つどいの場」では、住民の皆様一人ひとりが介護予防の活動を通して見守りや支え合いを行っています。

「通うようになってから、生活の楽しみができた！」
「家族や友人に、前より元気になったねと言われうれしかった！」
「参加している方と笑いあって、認知症の予防になっている。」
といった嬉しい声が寄せられています。

ぜひお近くの「つどいの場」へ参加してみたいかがでしょうか。
地域包括支援センターでは、「つどいの場」の紹介や、立ち上げ支援を行っています。



明治団地「明国健康体操」



桐ヶ岡つどいの場



本郷つどいの場

保健・福祉

【ケアマネジャー交流会】

内郷・好間・三和地区と常磐・遠野地区合同でケアマネジャー交流会を開催しました。研修のテーマは「高齢者・障がい者権利擁護のための意思決定支援の在り方を考える」です。講師にいわき明星大学 教養学部地域教養学科教授鎌田真理子先生をお招きし、意思決定支援の在り方について、ご講演いただきました。講演後は事例検討を行い、利用者の最大限の利益を引き出す意思決定支援の在り方は何かを考える機会となりました。

このような、多職種との研修会を通じ、医療・介護・福祉のネットワークの連携を強化し、地域包括ケアシステムの実現に向けて取り組んでおります。



研修会の様子

事例検討の様子

保健・福祉

【いわき相談支援ネットワークが始まりました】

相談支援専門員は、障がいのある方が福祉サービスを利用するにあたって、ご本人に寄り添い、本人中心の支援体制をつくっていきます。大切な役割ですが、地域に事業所数が足りなかったり一人職場だったり課題も多い中、地域で奮闘されています。

今年 9 月に「いわき相談支援ネットワーク」と称して、障がいの相談支援に従事している方が集まり定期的に事例検討等を行う場を作りました。これまでに3回開催しました。相談支援員同士が高め合い支え合うことで、障がいのある方により良い相談支援が提供できるよう、この集まりを続けていきたいです。



第3回定例会の様子(1)



第3回定例会の様子(2)

本人の選択と本人・家族の心構え

【エンディングノートの普及啓発について】

健康でお元気な時から、自分の介護や医療、人生の終い方について考える事で『今』をより良くこれからを自分らしく生活していただく事を目的として、つどいの場などで活用啓発しています。はじめは戸惑われるところもありましたが、自分のためだけではなく、ご家族の方が記載したノートを目にする事で、その方のご意向を反映させやすい事等を説明すると、ご家族や友人と一緒に書いてみる等前向きに取り組まれる方が多くいらっしゃいました。